

熊野古道

ムラムラ記

56

「紀伊半島の靈場と参詣道」が世界文化遺産に登録されて10周年を迎えた2014年の6月から掲載を始めた「熊野古道みちくさ記」は、読者の皆様に支えられ、今回の56回をもって連載を終えることになりました。無事にここまでたどりつけた達成感を味わえて幸せに思っています。

神事と国際化
現地取材では、仲介思えば、表面に現われない、取材のために足や情報を提供いただいた川湯温泉の栗栖

敬和氏、和歌山市在住の語り部の堀丈夫氏ご夫妻、吉田圭治氏、東道氏には、期間中暖かく見守っていただきました。家内昭子(秦華)

句の担当として円滑に連載を進めてもらい、誠に感謝です。

れ、生々しい体験を吐露していただき、たくさんのが感激を味わいました。人間が更に好きになり、人間にとつて人間が一番の刺激剤だと学びました。

観察取材ではいくつかの例大祭や神事を見ましたが、どれも観光化していない氏子のた

めの神事で、わざとらしさがないことに感心しました。100%地元コミュニティーのための神事なのです。

日本書記によれば、木の神様の元締め、スマオノミコトの長

連載を終えて

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

古道ゆづくり歩いてみて

めの神事で、わざとらしさがないことに感心しました。100%地元コミュニティーのための神事なのです。日本書記によれば、木の神様の元締め、スマオノミコトの長

られたようなショックを受けました。原点でした。こんなたたずまいが、熊野のいたるところにあり、おのずと心が洗われていった気がします。

互いの信仰を認め合う精神は、多様性を認め合うことであり、日本の精神性の柱になっています。一神教のイスラム教やキリスト教の絶対主義と違う世界の存在に気づかされました。

た力ナダ男性もあり、本宮大社、那智大社、速玉大社の熊野三山。

男、長女、次女が祀られている伊太祁曾神社。その拝殿の前に立つと

周りは、神木となる楠

熊野権現です。阿弥陀如来、千手觀音、藥師

や魔除けの神木のナギ

王子を通って船玉神社に出たとき出会ったフ

ランスの方は、ヒッチ

の巨木が立ち並んでい

ます。人間の何倍も生

きている木々を見上げ

ると、畏敬の念が湧き、

その木に命が宿っていることがはっきり感じ

ます。人間の姿になって衆生の救濟のためにこの世に現われるという神仏習合の信仰に古き日本人の知恵を学びました。お

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5

和歌山第一生命ビル4階

T E L 073(431)1411
F A X 073(433)0650

wakayama@mainichi.co.jp



大門坂（那智勝浦町）にて

変化した役割

熊野詣でに対する古人的受け止め方を知る代表的な文献に藤原宗忠「中右記」があります。本宮前で「感涙抑え難く隨喜感悦す」と言わせたのは、難行苦行の末、目的をもって歩き通した達成感なのです。無心の境地から「よみがえりせ」や法皇が「よみがえらせ」に気づいたとき、祖先の誘惑に惑わされない人間として強く生きられるようになったといいます。便利さを求める現代人には耳の

痛い話です。

熊野古道は熊野街道、熊野参詣道など呼称も何通りかあります。「道」が時代とともにいろいろな役割を果たしてきたことによる変化なのでしょう。田畠や柴刈りに通う�行の末、心の安らぎを求める人活道路からはじめ、心の安らぎを求める人々の神社仏閣への参詣道になり、戦国時代は戦場になりました。商業経済の発展とともに物流・交通・情報伝達のための街道になりました。

最後に私が熊野古道を歩む時、心に刻んだ藤白神社の吉田晶生宮司の話を贈りたいと思います。熊野古道を歩いて①自然に触れ、人に触れほしい②自然に畏敬の念を持ち、神仏の存在に気づいて欲しい③人に会い、お接待の原点に触れて、あいさつの大切さを感じて欲しい——の3点です。どうぞ熊野古道をゆっくり歩いてみてください。

読者の皆様、56回の長きにわたりじ愛読ありがとうございました。それゆえ道を歩くことこそが、歴史を知り、将来を見通す早道のようにも思えます。